



Share Rotary—
Serve People

みんなにロータリーを
みんなに奉仕を



会長 内山喜一 幹事 齋藤 隆 副会長・クラブ奉仕 佐藤順治 職業奉仕 石川寿男 社会奉仕 佐藤 衛 国際奉仕 三井 健 青少年奉仕 小池繁治

出席報告：会員 73 名 出席 57 名 出席率 78.08 % 前回出席率 75.34 % 修正出席 64 名 確定出席率 87.67 %

会 長 報 告

内山喜一君

- 冒頭より悲しい、大変悲しいお話で恐縮ですが、11月23日「ひさごや」の村山ちとせ様が突然逝去されました。ひさごやさんとは当クラブ創立以来出火による災害に会われるまで24年間という長きに亘って、当クラブの例会場として利用させて頂いてまいりました。当クラブの絶大なる協力者であり、又当クラブと共に歩んできた履歴を持つお家と言っても過言でないと思います。25日、仲道の宗伝寺に於いて葬儀が取り行なわれ、当クラブから川村会長エレクトに参列して頂きました。ご香典と事務局から弔電を差し上げさせて頂きました。皆様と共に心からご冥福をお祈り申し上げたいと思います。
- 台中港区R.C.から統盟式の案内がまいりました。まだ確定したわけではありませんが、私共としましては、こちらから行くか、あるいは向こうから

来られるか、又当クラブの25周年記念の時に統盟式をやってもよいというお話もあり、25周年記念に「華」をそえて頂くような意味で、或はおいで願って、その25周年の中で統盟式というふうと考えておりますが、決定次第又ご案内致したいと思ひます。

- 先般、伊藤分区代理がおいで頂きました時に、ガバナーよりの伝言として、ポール・ハリス・フェローのバッチですが、フェローの方は、これからの例会及びその他の会合に出席の際はバッチを付けて頂くようとの事ですので宜敷くお願い致します。

幹 事 報 告

齋藤 隆君

1. 庄内分区1・2年の新会員の研修会
1月22日午後1時より酒田産業会館にて
義務出席者 会長・会長エレクト・副会長
ロータリー情報委員・幹事

会 員 ス ピ ー チ

アメリカに行つての報告と ユネスコのお願ひについて

三 井 徹 君

先月の中旬、鶴岡市のアメリカの姉妹都市、ニューブランズウィック市(NB市)を訪問した。同市を訪れたのは1969年以来、14年ぶり2度目である。

両市が姉妹都市の盟約を結んだのは昭和35年のことである。そのつながりは幕末にさかのぼる。旧庄内藩の俊才、高木三郎が、幕府の最初の派米留学生の一員に選ばれ、NB市のラトガース大学に留学した歴史的きずなで結ばれている。盟約締結以来23年になるが、その間の両市の交流といえばメッセージの交換など儀礼的な域を出ないうらみがあった。

しかし昨年、NB市のリンチ市長の招待に応じて齋藤市長、佐藤前市議会議長はじめ市民有志が親善訪問したのを機に両市の関係は一挙に進展した。さらに今春、鶴岡市側に鶴岡・NB友好協会が発足し、

市民レベルでの交流の基盤が整った。既に若い鶴岡市民がラトガース大学に留学、鶴岡ロータリークラブから女子高校生が留学している。一方、NB市側からは若手の日本文化研究者がこのほど来鶴し、英語教育を通じて両国の理解親善にひと役買うなど、交流の成果は着実に実を結んできている。

今回の私の訪問は、友好協会の代表、ロータリアンとして、ようやく軌道に乗り始めた両市間の交流を市民レベルでさらに深めることであった。具体策としては、懸案のリンチ市長の訪鶴をはじめ、中高生たちの交換留学の拡大などについてリンチ市長NBロータリークラブの例会で卒直に訴えた。

特に、若手弁護士でもあるリンチ市長は日本についても知識が深く、懇談ではわが国の食管会計の赤

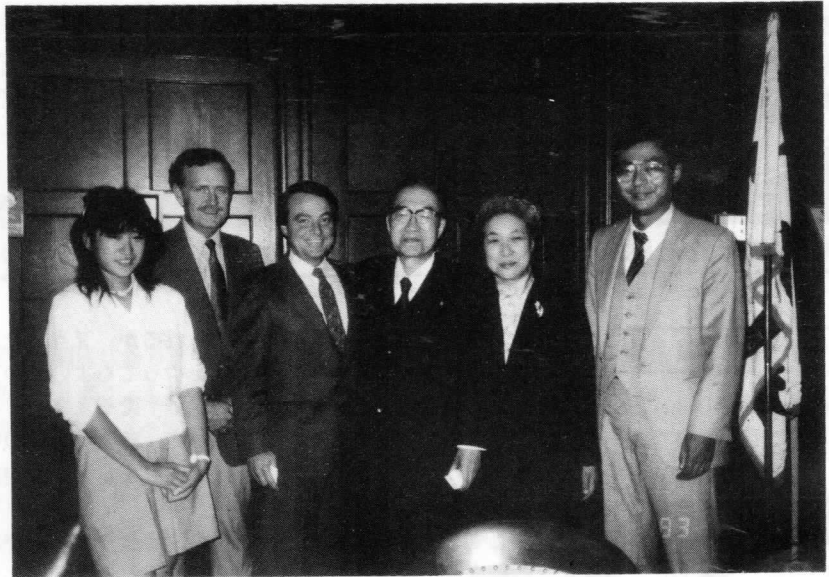
庄内空港の建設を推進しましょう

字問題にまで話が及んだ。
なお、同市長は今年中に訪鶴する予定だったが、今月行われるニュージャージー州の上院議員選挙に立候補（市長在職のまま）することになり、急拠延期せざるを得なかった事情がある。しかし来年の鶴岡市制60周年記念式の機会に訪鶴したい考えであることを明らかにした。

また、NBロータリークラブの例会の席で、姉妹都市交流の発展を呼び掛けたところ、会員の1人が立って「ぜひ姉妹都市交流の具体化と発展のために行動を起こそう。今こそ実行の時である」と訴えてくれた。

ところで、今回の訪問を通じて考えさせられたことが幾つかある。その一つは、両市とも世代交替が進んでいることを忘れてはならない、ということである。23年前に両市の橋渡しに尽力した方々の多くは既に故人になられたり、第1線をリタイアされている。つまり、姉妹都市に限らず国際交流事業というものは、世代交代を絶えず念頭に置いて取り組まないと、いつの間にか名目だけに形がい(骸)化する恐れがある。そのためにはこれからの姉妹都市交流は、世代のバランスを考慮しながら、行政サイドだけでなく、市民レベルでの息の長い交流を掛けねばなるまい。

もう一つは、姉妹都市交流というものは単なる儀礼や、きれいごとではなく、地道な平和運動の一つであることを忘れてはならない。その礎は、第二次大戦の反省に立ってアイゼンハワー大統領が提唱した平和運動にある。「住民たちがどんな小さな事でもよい。国家という垣根を越えて、お互いの生活を



知り、理解し合う努力を積み重ねれば、そこに親しみが生まれ、地球上から争いごとがなくなっていく」との理念に基づく。

現に、国際間のもめ事の多くは、基本にはお互いの無理解、誤解によるものが多いようである。人種や社会体制の違いはあっても、相方の国民たちが相手の生活習慣、文化に根差した物の考え方、生き方を理解し合えば、それが世論となって一国の外交の在り方を変えることも可能である。

特に資源小国のわが国が近代国家として成立していくためには、国際社会での孤立は絶対に避けなければならない。そのためには特に、これからのわが国、わが郷土を担う若い人たちが国際的視野をもち、国際感覚を身につけることが最も大切であると考え

(58.11.4山形新聞より抜すい)

ユネスコってなんでしょう？

UNESCO (ユネスコ) とは、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization の頭文字を集めた略称で、国際連合教育科学文化機関といいます。

ユネスコは、どうしてつくられたのでしょうか。ユネスコを生み出した最も大きな背景は第2次世界大戦です。2,600万人もの貴い人命が犠牲となり、そして、広島・長崎に投下された原子爆弾は人類が人類を滅亡に導くという恐ろしさをまざまざと感ぜさせました。

第2次大戦中の1942年以来、ロンドンに亡命政府を置いていたヨーロッパ各国の文部大臣が集まり、大戦によって荒廃した教育の復興について話し合い

